

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部
創立10周年に寄せて

95

何回かの登山のあと、私は五葉山の山行きにおいて、自然と人間の関係についてのその理解を飛躍的に深めることができた。

それまでは、近代西歐的思考のあり方が一般的となっていただけに、自然は人間とは異なる対象物として認識し、そのように考え、対処し、取り扱うことに大きな疑問はなかった。

しかし、五葉山では、人間に極めて親和的な空間・距離・時間・迫り方で、バイカウツギ、ゴヨウサンヨウラク、ヨウラクツツジなどが親しげに声をかけてくる。気づくと子鹿も何か言いたげ

だ。マツもナラもブナも幹には苔むして悠久の時を感じさせる。いわば同じ目線で草木も岩も土までもが自然そのものに誘うのである。

もちろん知識としては、日本においては「山川草木悉皆成仏」と言っ

た。しかし、それを実感できたり、身体感覚で捉えられることはなかった。あくまでも知性による自然認識が支配していた。それが五葉山において、いわば感性が響き合う経験をしたのである。

「五葉山は特別の山だ」

盛岡市箱清水 岡田 秀二

そこにはきつと私自身をめぐめる状況も影響していたことであろう。それは、いつも大きな口をあけてよく笑う子が、いつの時からかうまくま

んでいたのである。個人と社会の関係とはどんな内実なのか。主体性とは、人間とは、何なのか。その子の回復への

展望を得たいとそんなことを考えることが多かった。さて、改めて気づけば

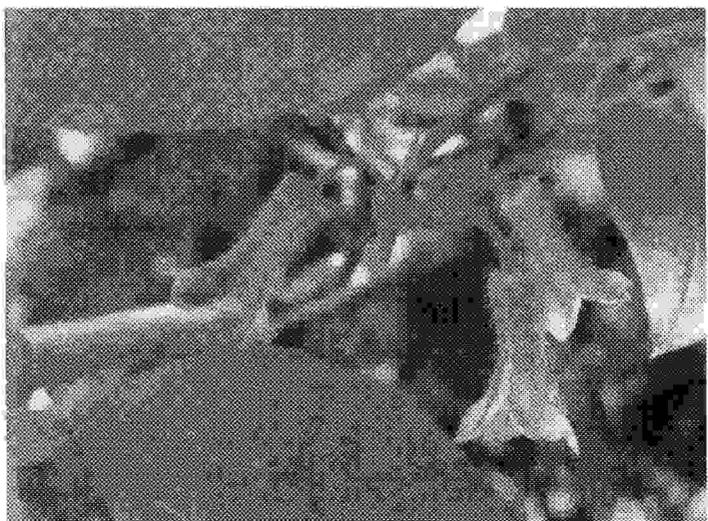
らぬに貴重な山であり、少なくとも私には特別の山なのだ。

【執筆プロフイル】一九五一年生まれ。盛岡市在住。七四年に住田町の林業振興のための調査で町内一戸と五葉山を訪れる。以来、山村振

興、林業振興の立場から、気仙一帯の農林家として五葉山地区に繰り返し出向いている。岩手大学農学部教授。



五葉山の自然は、動物も、草花も、木々と岩石たちも皆活き活き輝いていた。「山川草木悉皆成仏」とは、実は、自然の



ゴヨウサンヨウラクに自然と人の本質を感じる